

鳥獣害対策の取り組み

(対象：奈良市阪原町自治会)

要約

奈良市東部地域では有害鳥獣による農業被害が多発しており、特にサルによる被害は甚大である。奈良市阪原町ではサルが群れでやってきて農作物を食い荒らすなどの被害が発生しており、H25年度に侵入防護柵を設置した。関係機関との連携をはかりながら、効果的な被害防止についての検証及び支援を行った。

現状(背景)と課題

- 奈良市東部地域では有害鳥獣による農作物被害が多発。
- 奈良市阪原町ではH25年度に奈良市鳥獣被害防止対策事業により、約7千m²の圃場にワイヤーメッシュ柵の上に電線を取り付けたサル侵入防護柵を設置。
- 監視カメラを設置し、防護柵の効果及びサルの行動パターンを検証。

目標

- サルを始め鳥獣による農作物被害を軽減する。
- 阪原町をモデルとして、奈良市東部地域で有効な農作物被害防止方法を定着させる。



活動内容

- 阪原町地域住民より被害発生の報告や支援要望を受けた際には関係機関（奈良市農林課、農業研究開発センター鳥獣害プロジェクトチーム）と連携し、現場巡回を行った（8回）。
- H26年8月4日、H27年2月26日にこれまでの取り組み及び今後の対策について阪原町自治会員を対象に講習を実施した。

成果

- 講習会の実施により、阪原町自治会員の対策意識が向上した。
- 対策開始以前はサルが群れで圃場に襲来して壊滅的被害をもたらしていたが、侵入頭数及び被害が減少した。



阪原町自治会員との現場巡回の様子



H27年2月講習会



防護柵によりサルの侵入を防止

北部農林振興事務所農林普及課
担当：産地づくり係 峯圭司・飯田宰
(鳥獣被害防止都道府県活動支援事業)

普及活動のポイント

- ・奈良市農林課、農業研究開発センター鳥獣害プロジェクトチームと連携することで、対策の情報収集・指導を効率的に行った。
- ・監視カメラの映像からサルの行動パターンを検証し、侵入経路の探索・対策の指導を行った。

対象の変化

- ・現場巡回や講習会の実施によりソフト面での対策（防護柵周辺の樹木の枝打ちなどサルを圃場に近づかせない環境づくり、追い払いetc...）に対する意識が向上した。
- ・防護柵を自己施工したことから柵の機能の理解が進み、対策時には地域住民が自主的に改善を行えるようになった。

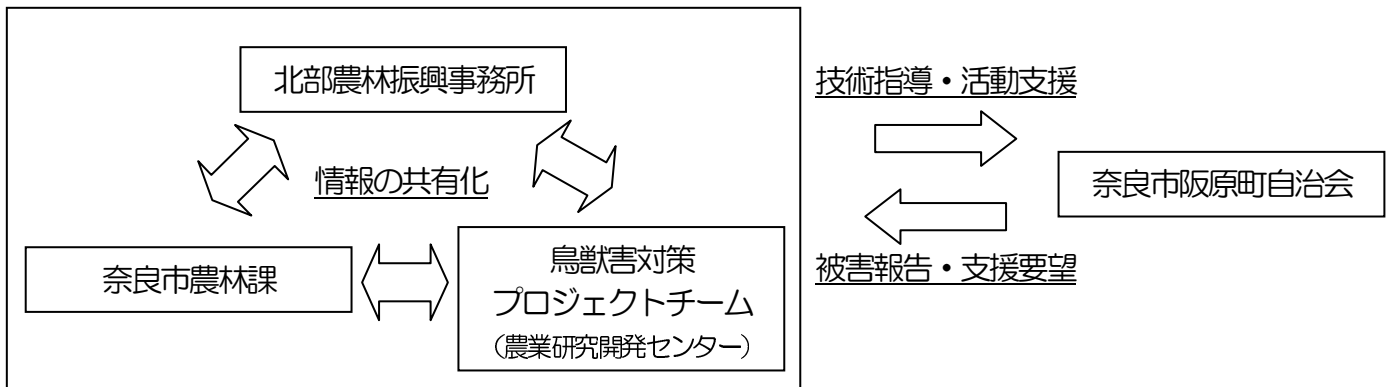
対象者からのコメント

- ・防護柵の設置前は大豆が全く収穫できない年があった。今年度の被害はゼロではないが、対策を始めてから被害が最も抑えられた年度となったように思う。
- ・サルも防護柵の機能を理解し、突破を試みるようになってきている。今後も対策を継続し、被害ゼロを目指したい。

これからの活動ビジョン

- ・本課題については普及計画一般活動として、関係機関との連携を密にしつつ阪原町自治会の対策向上に向けて継続的に現場対応を行う。

活動体制



用語解説

ワイヤーメッシュ：鉄筋を縦横に溶接して組まれたもの。もともとは土木建築工事等で使用する資材だが、有害鳥獣が圃場へ侵入するのを防ぐ目的でも用いられている。